

3 アーモンドの会の成り立ち

① 関東教区宣教綜合協議会での

講師の差別的発言をめぐる

十三年前、一九九三年だったと思いますが、（データは正確を要しますが、個々の出来事の詳細が報告の主眼ではありませんので、あいまいな点をお許しください。）毎年開かれる関東教区宣教綜合協議会にお招きしたある講師が（固有名詞を記すことは、当時の関係者にご迷惑をおかけしますので、この際避けました。）講演後の質疑応答の時間に、ご自分が司牧しておられる教会（単立教会）で、若い女性たちの会合では、特に妊娠中のこれから母親になる女性たちのために、祝福のお祈りをなさる、ということをお話されました。それはとてもすばらしい事だと思って聞いていたのですが、そのときおおむね以下のようにおっしゃったと思います。

『どうか生まれ出ようとしている子どもたちが、健康で障害を持たずに生まれるように』と。

それで私は講師に「障がいを持たないように」とはどういう意味ですか、と質問しました。すると講師は『いわば健やかに、ということ、両親の素朴な願いです。』と答弁なさったように記憶しています。わたしはどうも納得ができませんでしたが、その場は講師もそのような発言が差別的であるということにハッと気づかれたようでもあったので、答弁を言い訳程度と受け止めて、それ以上は突っ込みませんでした。今から考えると、もっと突っ込んで、その場でディスプレイオンすれば良かったと思っただけですが、その時点での私の反応も、薄弱なところがあつたと思っています。しかし、私の質問の背景には一つの根拠がありました。